

TOYO ELECTRIC CORPORATION

第85期 上半期報告書

2023年4月1日から2023年9月30日まで



CONTENTS

1 トップインタビュー
人を育て、社会課題としっかり向き合う。
社会と共に成長を目指します。

4 トピックス

5 セグメント別概況

7 連結決算概要

9 社員インタビュー

10 会社概要／株式状況

人を育て、社会課題と しっかり向き合う。 社会と共に成長を目指します。

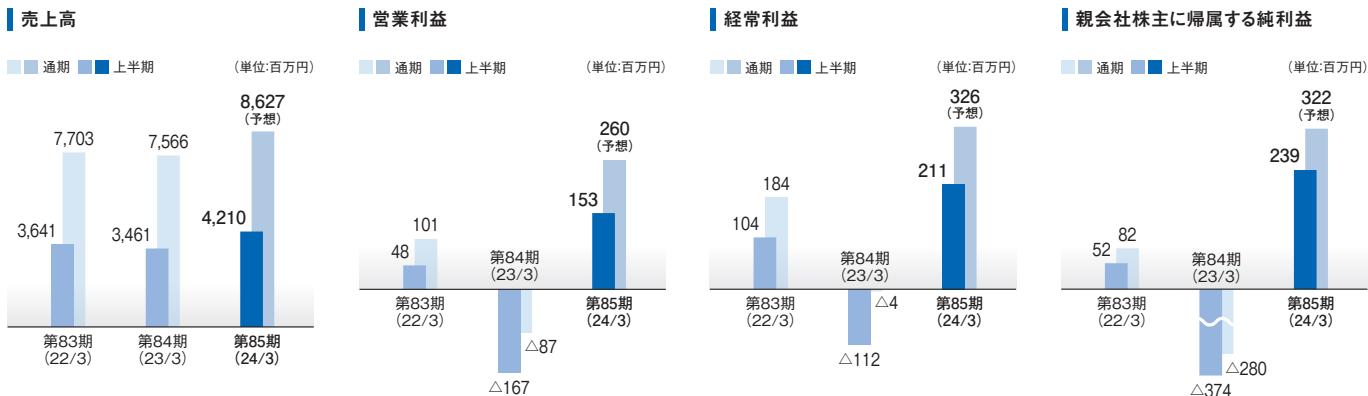
株主の皆様には日頃のご支援に心より感謝申し上げます。

当上半期(2023年4月1日から9月30日まで)を終了しましたので、
ここに謹んでご報告をさせていただきます。

株主の皆様には引き続きご支援を賜りますよう、
よろしくお願い申し上げます。

代表取締役 社長執行役員 **松尾 昇光**

連結決算ハイライト



Q1

コロナ禍も一段落しつつあるようです。東洋電機グループの事業環境にも変化は見られますか。

カーボンニュートラルに向けた脱炭素の動きも追い風となり、お客様の設備投資意欲にもようやく回復傾向が見られます。当上半期は、受注残が積上がり、売上も順調に伸びています。

この間、顕著であった部材や部品価格の高騰に見合った販売価格の見直しを進め、適正化も図っています。また、製造部門における生産性向上と営業業務における効率化の推進により、利益幅も当初の予想値を上回り、改善が着実に進みつつあります。

ただ、サプライチェーンの最適化には今しばらく時間がかかりそうです。当社グループでは部門によって取り扱う製品が異なりますが、いずれの部門においても必要な部材部品の、価格が高止まりしたり、上昇が続いたり、納期が読めないものがあります。部材や部品は余裕をもって発注し、お客様が希望する納期に近づけています。

Q2

事業部門の業績も上向きつつあるのでしょうか。特徴的な動きについてもお聞かせください。

売上だけでなく、利益面でも着実な改善が見られました。

まず、国内制御装置関連の3事業ですが、エンジニアリング部門は好調な物流関連業界で従来の業種業態にとらわれず新規開拓に努めた結果、お客様の獲得に成功しました。また、印刷関連分野でもデジタル印刷機対応の制御装置が拡大しました。

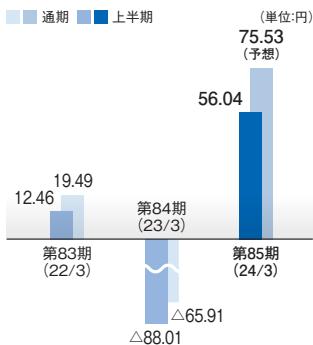
機器部門は、物流倉庫の省人化効率化に向けた自動化設備の需要増により、空間光伝送装置が伸びました。半導体製造装置関連では脱炭素化の動きから、電気炉業界向けに交流電力調整器が伸び、部門全体で改善が進みました。

変圧器部門は、DX(デジタルトランスフォーメーション)のインフラ整備によるデータセンター向けや太陽光発電設備向けの設備投資需要により、売上・利益ともに増加しました。

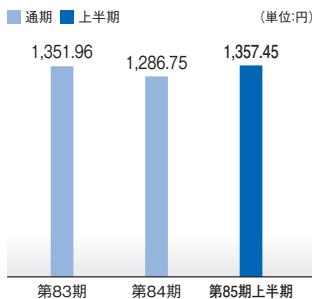


ただし、エンジニアリング部門で盤製作に必要なインバータなどの部品が、機器部門で装置の制御に必要な半導体電子部品が、そして変圧器部門で銅や鉄といった原材料に納期の遅れや価格の高騰が続いており、生産にとって不透明な要因となっています。

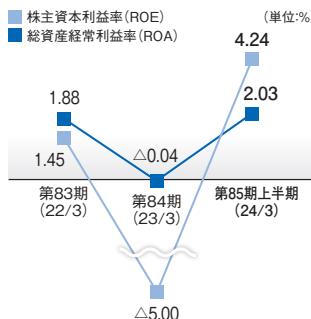
1株当たり純利益



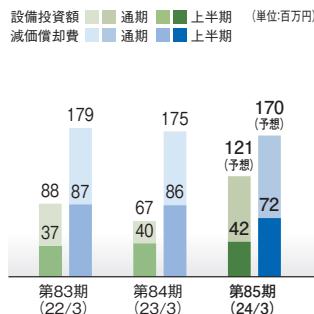
1株当たり純資産額 (BPS)



株主資本利益率(ROE)/総資産経常利益率(ROA)



設備投資額/減価償却費





Q3 海外事業でも復調の動きは
見えているのでしょうか。

中国子会社は、EV（電気自動車）関連がけん引し、EV向け部品メーカーの投資が急拡大しているため、それに伴う盤事業が好調です。エレベータセンサは、不動産業界の不況の影響を受けています。中国は賃金水準が上昇するとともに、採用が年々厳しくなっています。こうした環境の変化を踏まえ、モノづくり全体の方式の見直しが必要かもしれません。なお、南京市における当社拠点の資産を有効活用するため、工場敷地の一部を宿泊施設や遊技競技場などとして活用し、不動産賃貸収入を得ることを計画しています。

タイ子会社は、コロナ禍による制限が緩和されつつあるものの、観光業の不振が続いていることから、活況を取り戻すには至っていません。

Q4 コロナ禍の中で様々な試みに
チャレンジしてきました。評価できる点がありましたらお聞かせください。

コロナ禍では、リアルな対面営業ができなくなりました。営業の効率化を図るよい機会だと考え、MA

（マーケティングオートメーション）ツールの活用を進めました。営業がアプローチすべき見込み顧客を抽出し、マーケティング情報を自動的に配信して商談の可能性が高いお客様を可視化し、仕事につなげようというものです。お客様との接点を増やすことができ、より効率的な営業活動が進みました。

また、生産現場では、課題となっていたサプライチェーンの選択肢を増やすことで、お客様のご要望に可能な限り対応できる体制づくりに努めました。

製品開発では、カーボンニュートラルの実現に向けた設備投資意欲の高まりを受け、持続可能な製品づくりを強く意識した製品開発を急いでいます。当社のコア技術と環境対策関連技術を融合させ、市場における魅力と優位性を獲得していきます。

なお、営業のさらなる効率化は是が非でも進めなければなりません。このほど大手メーカーを退職した方を営業顧問として迎えました。当社の手が届かなかった新規のお客様をターゲットに、当社の技術やノウハウを売り込んでいきます。

Q5 ホームページを拝見すると「製品情報」「イベント情報」「展示会情報」などが次々と登場します。お客様と向き合おうとしている姿勢を感じるのですが……。

情報発信は極めて重要です。製品情報ではFAQの形で「今さら聞けない、トランスの接地ってなんだろう?」と3つのポイントに絞った動画を8月に掲載。技術公開と称して「エレベータの『すき間』のヒミツを解明!」の動画を9月に掲載しました。イベント情報では脱炭素相談窓口が行うカーボンニュートラルに向けた取組み「Toward 2030 Concierge（脱炭素社会へのお手伝い）」を計8回発信しています。コロナ禍で痛感したのですが、WEBを活用すれば新鮮な情報をいつでも届けられます。課題は

お客様の関心にどれだけ刺さるか、なのです。

お客様が欲しい情報、新鮮な切り口の情報であるかどうかが問われます。情報を素早く、分かりやすく加工するだけでなく、お客様の関心をしっかり把握しなければなりません。お客様に役立つ情報であれば、必ず反応が出てきます。

今後の課題としては、これら情報発信の成果として、当社の事業につながるよう、刈り取る工夫がもう少しあってよいのかもしれない。

Q6 東洋電機はSDGs（持続可能な開発目標）
に取り組むとともに、お客様に提供する製品・サービスにおいても「サステナブル（持続可能性）」を強く意識しています。手ごたえはいかがですか。

当社グループでは、社会の課題解決に貢献できる製品およびサービスの提供が何よりも大切だと考えています。市場別にお客様の課題解決に寄与する製品を強化しようとしています。最近では、10月に開催された「脱炭素経営EXPO in 幕張メッセ」で自家消費型太陽光発電用乾式トランスを展示し、来場者の大きな関心を集めました。

脱炭素などの社会課題と向き合うためには、グループ内における人財の成長が欠かせません。人の成長なくして当社グループの成長はありえないのです。当社は本年度から人財育成に関わる教育研修費を手厚くしています。また、属人化しがちな技術やノウハウをまとめ、年2回の発表会を実施して、社内における技術やノウハウの共有化を図っています。人財あっての企業だけに、一人ひとりの従業員がいきいきと働くためにも、「働きがいある職場」をつくるのが求められています。また、従業員の仕事と生活のバランスも大切です。その中でも女性従業員の活躍を推進し、すべての従業員がその能力を十分に発揮できるように取組みをさらに強めていきます。

TOPICS 1

名古屋証券取引所主催 名証IRエキスポ2023に出展しました



9月8・9日、名古屋証券取引所主催の個人投資家向けIRイベントに出展しました。東海地区の上場企業・証券会社を中心とした116社がブース展示や各種説明会を実施しました。

当社のブースには、2日間で約400名の投資家の皆様にご来場いただき、当社の事業内容や株主還元、新たな取組みなどについてご理解を深めていただきました。

お立ち寄りくださった投資家の皆様、貴重なお時間をいただきありがとうございます。

今後も当社の取組みや最新の状況を知っていただけるよう取り組んでまいります。

■イベント概要

名 称	名証IRエキスポ2023
主 催	株式会社 名古屋証券取引所
開 催 日	2023年9月8日(金)～2023年9月9日(土)
出展企業等	上場企業・証券会社等116社
入 場 料	無料

TOPICS 2

サステナブルな製品づくりに 取り組んでいます

当社はSDGsの実現に向けて、サステナブル(持続可能)な製品づくりを推進しています。最近では2021年2月に「自家消費型太陽光発電用乾式変圧器」の販売を開始しました。お客様の工場や店舗の屋根で発電した電気をその施設で消費する、電気の地産地消を行うシステムでご利用いただく製品です。この変圧器を販売するにあたり「サステナトランス、SustainaTRANS」という名称を商標登録申請し、ブランディングにも注力しています。

また、当社のサステナビリティ製品のPRを目的として、9月13～15日に「脱炭素経営EXPO」へ出展いたしました。当社のブースには開催3日間で合計150名の方にお越しいただき、新しいお客様の獲得や、製品に対するご要望を直接吸収できる良い機会となりました。

今後もサステナブルな製品づくりを継続し、より多くのお客様の役に立てるよう取り組んでまいります。



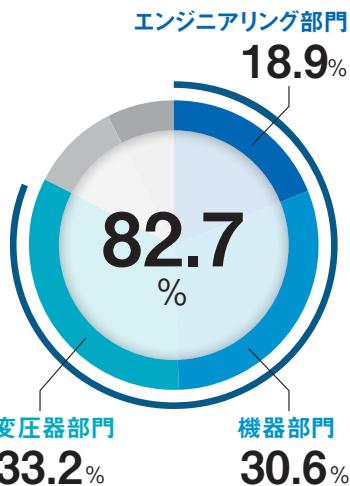
国内制御装置関連事業

売上高 **3,481** 百万円

前年同四半期比 **23.8%増**

国内制御装置関連事業は、当社グループの中核事業として、日本国内を中心に事業展開をしており、監視制御装置、配電盤、変圧器、センサ、ソリューション向け装置および表示器の製造・販売を行っております。当事業を構成するエンジニアリング部門、機器部門、変圧器部門の3部門すべてにおいて売上高は増収となり、売上高は3,481百万円(前年同四半期比23.8%増)となりました。

構成比



エンジニアリング部門

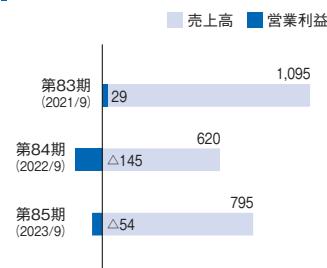
売上高 **795** 百万円 前年同四半期比 **28.1%増**

エンジニアリング部門の事業は、業種業界ごとに異なる制御システムを提供しております。当事業の内、印刷制御装置分野における一部の部品供給が改善されたことにより、売上高は795百万円(前年同四半期比28.1%増)となりました。

主要製品



売上高・営業利益推移 (単位:百万円)



機器部門

売上高 **1,288** 百万円 前年同四半期比 **17.6%増**

機器部門の事業は、光技術を応用した様々な産業設備用機器を自社開発し、自社製品として提供しております。当事業の内、センサ分野・表示器分野は顧客における半導体関連、カーボンニュートラルへの取組みによる設備投資の拡大などにより伸長し、売上高は1,288百万円(前年同四半期比17.6%増)となりました。

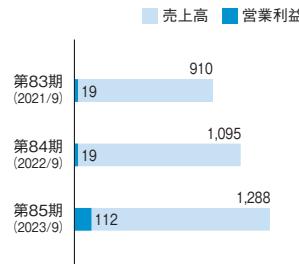
主要製品

- 空間光伝送装置
- エレベータ・エスカレータ関連機器



空間光伝送装置

売上高・営業利益推移 (単位:百万円)



変圧器部門

売上高 **1,398** 百万円 前年同四半期比 **27.6%増**

変圧器部門の事業は、当社が設立以来営んでおり、受配電用変圧器から機械設備用変圧器などを提供しております。当事業は、データセンター向けや再生可能エネルギー関連の設備投資が堅調に推移したことにより、売上高は1,398百万円(前年同四半期比27.6%増)となりました。

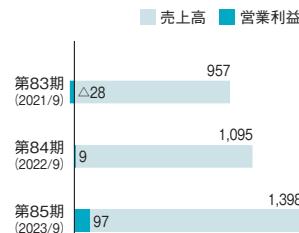
主要製品

- 乾式変圧器
- モールド変圧器
- 耐雷変圧器
- 始動リアクトル



乾式変圧器 TKH4シリーズ

売上高・営業利益推移 (単位:百万円)



海外制御装置関連事業

売上高 **422** 百万円前年同四半期比 **13.8%増**

海外制御装置関連事業は、当社グループの海外企業2社が事業を展開しており、中国南京市にある南京華洋電気有限公司は、中国国内向けの盤関連製品の製造販売や中国国内やタイ王国などに向けたエレベータ関連センサの製造販売を行っております。また、タイ王国にあるThai Toyo Electric Co.,Ltd.は、南京華洋電気有限公司から輸入したエレベータ関連センサの組立・検査・販売を行っております。当事業は、設備投資の需要増および電子部品の供給網改善により、売上高は422百万円(前年同四半期比13.8%増)となりました。

主要製品

- 盤関連製品
(南京華洋電気有限公司のみ)
 - ・高圧受配電盤
 - ・コントロールセンタ
 - ・PLC応用制御盤

C型コントロールセンタ



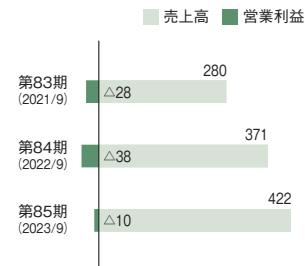
構成比



- エレベータ関連製品
(南京華洋電気有限公司と Thai Toyo Electric Co., Ltd.)
 - ・マルチビームセンサ
 - ・かご位置確認用センサ

エレベータセンサ
「かご位置確認用センサ」

売上高・営業利益推移 (単位:百万円)



樹脂関連事業

売上高 **306** 百万円前年同四半期比 **10.5%増**

樹脂関連事業は、当社グループの東洋樹脂株式会社が展開している樹脂リサイクル事業です。当事業は、自動車生産量に回復の兆しが見られ、当部門の売上高は306百万円(前年同四半期比10.5%増)となりました。

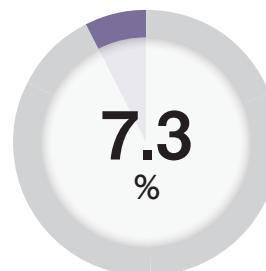
主要製品

- 廃プラスチックのリサイクル
- リサイクル樹脂ペレットの生産・販売
- プラスチックのコンパウンド受託加工
- 樹脂パウダーの生産

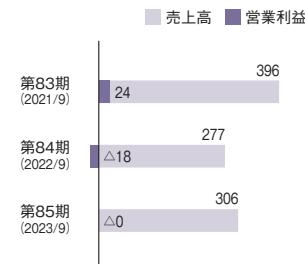


樹脂ペレット

構成比

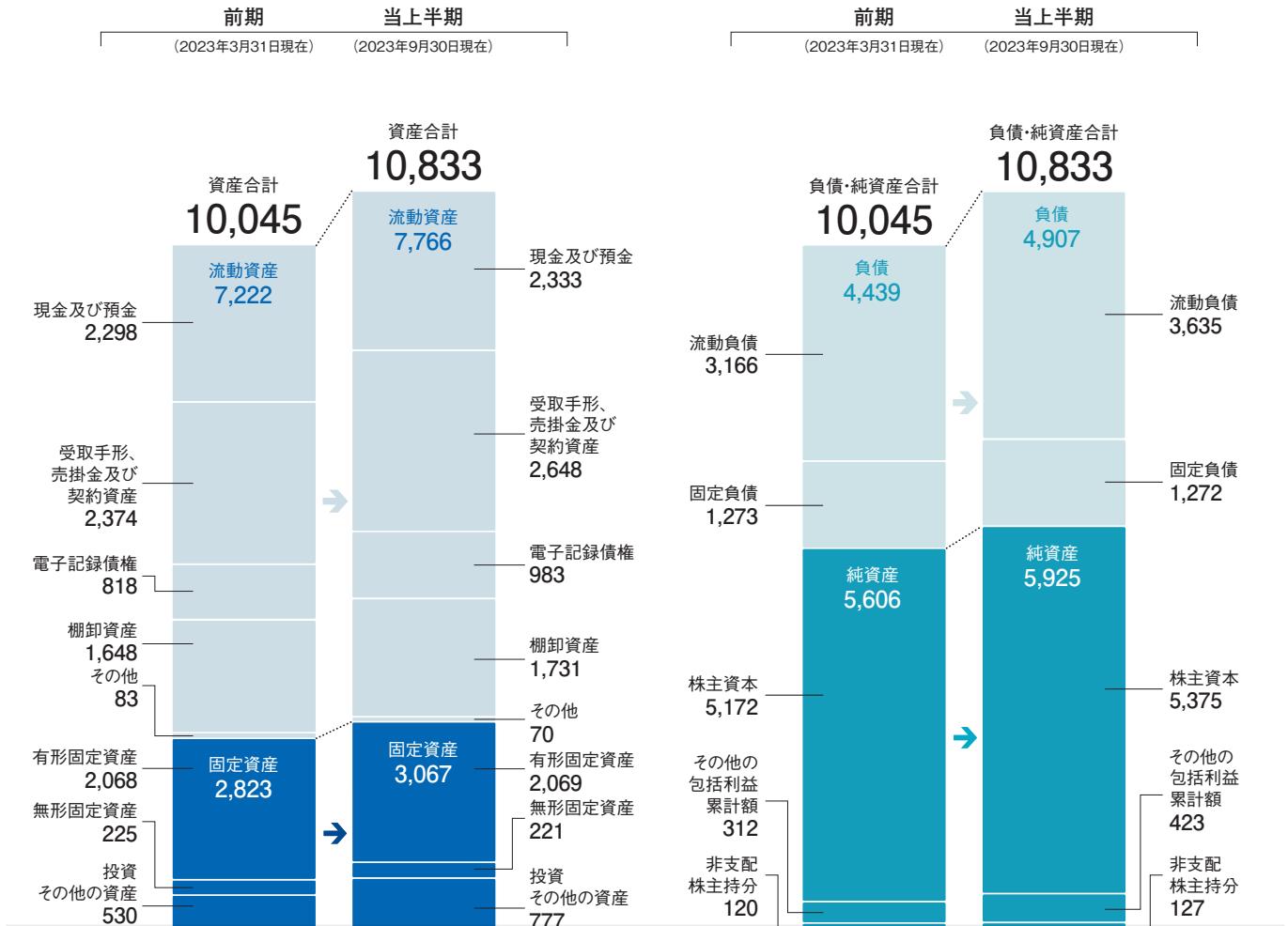


売上高・営業利益推移 (単位:百万円)



連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)

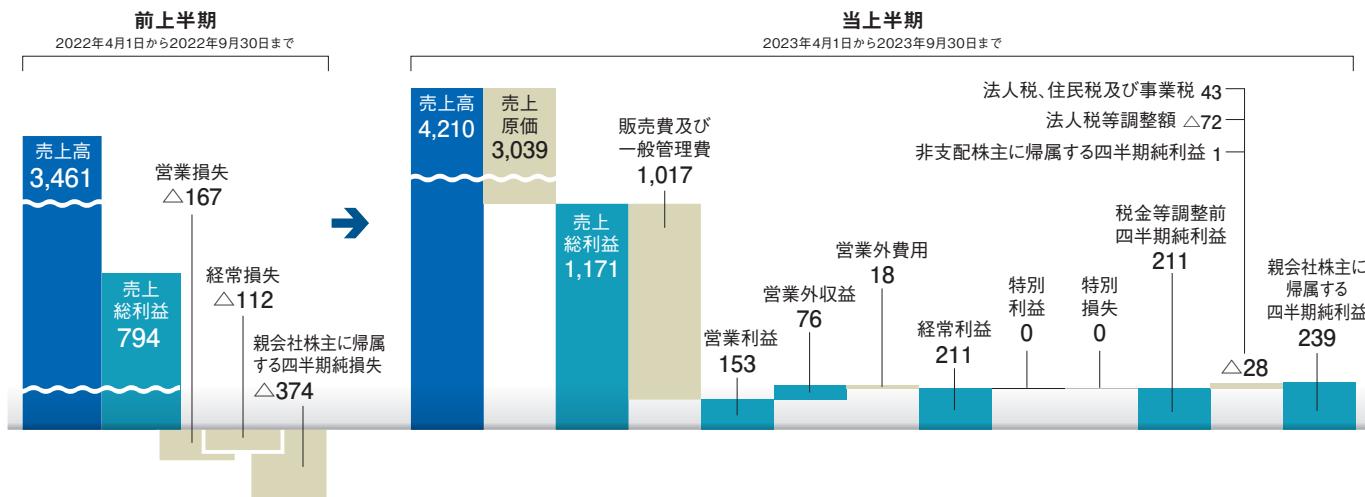


POINT

総資産は、受取手形、売掛金及び契約資産の増加などにより前期末比787百万円増加し、負債は、支払手形及び買掛金の増加などにより、前期末比468百万円増加しました。なお、純資産は、利益剰余金の増加などにより、前期末比319百万円増加しました。

連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



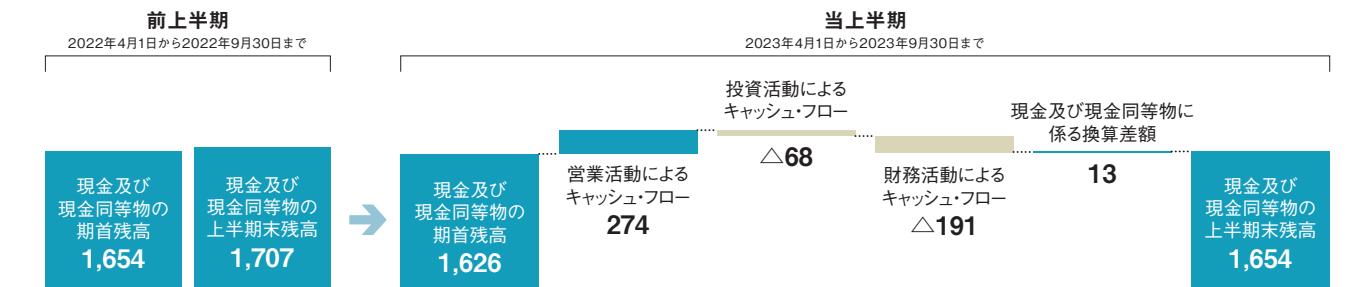
POINT

当上半期は、MAツールを活用した効率的な営業活動を行い、DXを意識した業務効率改善を進め、複数サプライヤーへの転換などサプライチェーン最適化の取組みを継続し、コア技術製品の競争力強化、次世代につながる技術開発やサステナビリティを意識した製品開発を推進してまいりました。

売上高は、エンジニアリング部門、機器部門、変圧器部門のすべてにおいて増収となり、海外制御装置関連事業、樹脂関連事業においても売上高は増収となりました。利益面では、原材料が高騰する中でも、原価率の抑制に努めたことや、販管費率の改善などにより、黒字転換となりました。その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は、239百万円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



POINT

当上半期の現金及び現金同等物は、前期末比27百万円増加し、1,654百万円となりました。営業活動の結果得られた資金は、退職給付に係る負債の増加や仕入債務の増加による収入などにより274百万円となりました。投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出などにより68百万円となりました。財務活動の結果使用した資金は、長期借入金の返済による支出などにより191百万円となりました。



電気を安全に、安定的に使ってもらう—

“伝える力”を鍛え さらに成長したい

エンジニアリング事業部
技術部設計課

やまもと つばき
山本 翼

電気を安定的に届けることの意義

大学では電子情報工学科で電気と情報学を学びました。大学で企業説明会があり、東洋電機のブースにたまたま顔を出したのが縁で入社を決めました。

配属されたのはエンジニアリング事業部の技術部設計課。そこでパワー技術と呼ばれる工場などの大型施設に電気を安定的に供給する盤装置の設計に関わって6年目となります。工場などでは、電気の使い方も多様で複雑。電気を安定的に制御するため配電盤、分電盤、動力盤、制御盤などが使い分けられています。今、私が担当しているコントロールセンタはモーターやポンプなどの電源を1カ所で集中して制御する動力盤の一種です。

技術部設計課は現在12名。電気については基礎しか学んでいなかった私は、先輩に付いて設計を一から学び、補助的な作業からスタートして、どうにか仕事を任せられるようになりました。

お客様に喜ばれる装置をどう設計するのか

盤装置の多くは一点物の受注生産です。見積もりを提出して受注が決まっても、そこから客先と詰めの打ち合わせが必要となります。大きな工場では限られたスペースに幾つもの盤が並んでいますから、新しく製作する盤にどのような機能が必要なのか、設置場所はどうかなど、一筋縄ではいきません。いざ設計となると回路図、部品図、端子図、外形図…など

作成する図面の種類が多く時間を要します。

この数年、コロナ禍で客先との面談もWEBで行われたほか、部品部材の納入が読めず、仕事の進め方がより煩雑になっています。たとえば、客先の要望で直流電圧を交流電圧に変えるインバータを取り付けるとなると、納期にかなりの遅れが生じました。また、部品選定では、使用する部品メーカーによって形状が異なるため、どの部品が手に入るかで設計の見直しも迫られました。私自身はこうした仕事の流れの説明とともに、装置の特性をきちんと“伝える力”をさらに磨く必要があると考えています。

仕事もプライベートも

社会人になって親元を離れ、今は会社の近くで一人暮らしをしています。仕事は自分にとって大切なものだけに、残業も含めて仕事にきちんと向き合いたいと考えています。ただ、今の世の中、仕事だけでは味気ないのも事実で、プライベートも大切にしないといけません。最近は食品類も軒並み上がり、自炊でも思わぬ出費がかさみ、驚く毎日ですが、食べるのが好きなので、手を抜かずちゃんと食べるようにしています。

今、いちばん楽しいのは、友人と飲んで話をする事。

他には最近ではラーメンに凝っています。コテコテの豚骨スープに太麺を絡ませた二郎系ラーメンが特に好きです。もやし、キャベツ、チャーシューが山盛りなのもうれしいですね。

会社の概況

商号	東洋電機株式会社
設立	1947年(昭和22年)7月
資本金	10億3,708万円
本社・春日井工場	〒486-8585 愛知県春日井市味美町2-156
神屋工場	〒480-0393 愛知県春日井市神屋町字引沢1-39
営業所	東京、名古屋、大阪
関係会社	東洋樹脂株式会社(愛知県小牧市)
	東洋電機ファシリティーサービス株式会社(愛知県春日井市)
	東洋板金製造株式会社(愛知県春日井市)
	南京華洋電気有限公司 (中華人民共和国江蘇省南京市)
	Thai Toyo Electric Co., Ltd. (タイ王国チョンブリー県)
主要取引銀行	商工中金、百五銀行、三井住友銀行、名古屋銀行
従業員数	個別:195名 連結:391名

株式の概況

発行可能株式総数	9,000,000株(普通株式)
発行済株式の総数	4,694,475株(自己株式422,900株を含む)
株主数	2,083名

大株主

株主名	持株数	持株比率
有限会社城西	430千株	10.07%
東洋電機取引先持株会	349千株	8.18%
株式会社商工組合中央金庫	232千株	5.44%
東洋電機従業員持株会	199千株	4.67%
株式会社百五銀行	195千株	4.56%
松尾隆徳	173千株	4.05%
トーヨーテクノ株式会社	144千株	3.39%
松尾昇光	143千株	3.36%
日本生命保険相互会社	125千株	2.92%
三浦陽子	111千株	2.60%

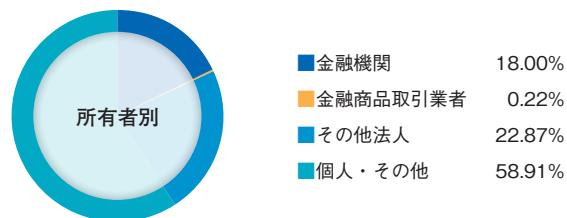
(注)持株比率については、自己株式(422,900株)を控除して算出しております。

役員

代表取締役 社長執行役員	松尾昇光
取締役 常務執行役員	井澤宏
取締役 常務執行役員	加賀美孝
取締役(監査等委員)	加藤茂男
取締役(監査等委員)	葛谷昌浩
取締役(監査等委員)	井上誠

(注)取締役 葛谷昌浩氏および井上誠氏は、社外取締役であります。

株主分布図



事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場取引所	株式会社名古屋証券取引所 メイン市場(コード6655)
公告方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告のホームページアドレス	https://www.toyo-elec.co.jp/

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

第85期
中間配当金に関する
お知らせ

第85期中間配当金は、2023年11月8日開催の取締役会で**1株につき10円**と決議いたしました。なお、配当金の効力発生日ならびに支払開始日は、**2023年12月4日**となります。

(注)「第85期中間配当金支払いに関する取締役会決議ご通知」のご案内は、郵送による発送をやめ、当社Webサイトへの掲載に変更させていただきます。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

ホームページのご案内



最新の製品情報やIR情報などを分かりやすく掲載しています。

<https://www.toyo-elec.co.jp/> 東洋電機 検索



お問合せ先

東洋電機株式会社

〒486-8585 愛知県春日井市味美町2-156
TEL.0568-31-4191 FAX.0568-31-8096

この報告書は植物油インキを使用しております

